



図書館随想

—ほの暗い書庫を渉猟した日々

堀 勝博

世界最大の蔵書数を誇るアメリカ議会図書館の全収蔵資料を角砂糖1個大のメモリに納めるという話を聞いたのは、今から20年ほど前のことだった。それが実現したという噂は未だ聞かないが、図書館や学術情報のデジタル化は、目を見張るものがある。国立国会図書館に入っても、1階にはほとんど本がなく、デジタル資料検索・閲覧のためのおびただしいモニターがあるばかりだ。かつては一冊の本を閲覧したり複写したりするのに、複雑な手続きが必要だったが、最近ではそれらすべての手続きを、画面上で済ませることができ（非デジタル化資料を除く）、隔世の感がある。

学問研究の方法も、すっかり様変わりしてしまった。私のような古典語を研究対象とする者は、できるだけ多くの原典や資料にあたり、目を皿にして語の用例を探し出し、図書館や古書店に向いては、索引本や参考資料を漁る。古写本などを見る時は、あらかじめ手紙で資料館等に許可申請し、所定の日に遠路を厭わず向うき、貴重書閲覧室などに案内されて有り難く拝読するものだった。が、今や索引本などはまったく不要になり、写本や稀覯本の類も、クリック一つで許可なく気楽に閲覧できるようになった（もちろん全部が全部ではないが）。昔

京都ノートルダム女子大学 司書・司書教諭課程 ニューズレター

目次

巻頭言

図書館随想

—ほの暗い書庫を渉猟した日々／堀勝博 …………… 1

司書課程から

図書館サービス特論／襟川茂 …………… 2

図書館情報技術論／鎌田均 …………… 2

卒業研究から

スタジオジブリ『ハウルの動く城』のメッセージ／小山侑起 …… 3

フリーペーパーというメディアの役割／旗本文彩 …… 3

現場の先輩、先輩の現場

点字図書館での日々／山田友香 …………… 4

書架から書庫から／今井優香 杉原里美 …………… 5

特別講義

図書館概論ゲスト講義

「図書館とまちづくり、学校教育支援

～ 生駒市立図書館の現場から」／鎌田均 …………… 6

学校図書館における科学的思考の育成支援／岩崎れい …… 6

実践報告

図書館から繋げる、人へと繋がる。

—ライブラリー・メイト活動報告—／米澤真樺 …………… 7

日々往来 …………… 8

を知る人間にとっては夢のような話である。コーパス、データベース、ポータル・サイト、デジタル・ライブラリ、リポジトリなど、カタカナ語で表わされるこれらのデジタル情報をいかに有効に使いこなすかが、研究の成否を左右する時代になったと言える。

学生時代、大学図書館のほの暗く黴臭い書庫を渉猟するのが好きだった。天金加工した古い福澤全集を見つけるとは、そのラインアップを一覧し、大正時代の製本技術に感心してみたり、延喜式祝詞の英訳本を見つけるとは、その著者が外国人だったことに驚いたり、そんな胸躍る発見が続いた。ある日、書棚の奥の方に古ぼけた木箱を見出した。昭和8年オフセット版で出された万葉集の写本で、朱や紺青の傍訓も見事に再現され、鎌倉時代の学者たちの息づかいに感じ入った。私が万葉集の魅力に取り付かれ、万葉語研究の道に舵取りをするきっかけになった出会いだったかもしれない。

図書館でのこのような貴重な体験は、一見無駄なことのようにだが、学生としての自分の視野を拡げ、その後の研究生活を送る上でも豊かな糧となった。あれから40年近く経ち、今や図書館もデジタル化の一途をたどっているわけだが、私がしたようなアナログ体験の余地も少しは残しておいてほしい、いやむしろ大いに伸張してほしいと願っている次第である。

(人間文化学科教授)